

Hello & Goodbye 出会いと別れの本

3月も終わりに近づき、春の息吹が立ち込めてきました。春は出会いと別れのシーズン。環境が変化し、新たな門出を迎える方も多いのではないのでしょうか。

今回は、出会いと別れの本をご紹介します。

1冊目は、江國香織/作『つめたいよるに』です。

この本には、出会いと別れの不思議な一日を綴った「デューク」をはじめとする9編の物語が収められています。大好きだった犬との別れ、友達・先生・気になるあの子との別れ、愛する人との別れ、大切な家族との別れ…この本の中には様々な別れの物語が詰まっています。“別れ”という言葉をきくと、寂しく切ない気持ちになるかもしれませんが、この本は1つの物語を読み終わるたびに温かい気持ちにさせてくれます。出会いがあるから別れがある。人と出会い過ごす限りある時間を大切に思える、そんな一冊となっています。

2冊目は、角田光代/著『さがしもの』です。

この本は、本との出会いを描いた短編集です。表題の「さがしもの」という物語は、病床のおばあちゃんに頼まれた一冊を探し求め、奔走する日々を描いています。他にも、18歳のときに古本屋に売った本と何度も不思議な再会を果たす「旅する本」。恋人と喧嘩し1人で訪れた旅先の宿で、持ち主不明の詩集の中に挟まれた別れの手紙を発見する「手紙」など、本との出会いと、その本にまつわる出会いと別れの物語が描かれています。皆さんには忘れられない大切な本との思い出がありますか？この本を読むと、そんな自分だけの本との思い出が呼び起こされてくるかもしれません。

3冊目は、楠本智郎/編著『赤崎水曜日郵便局』です。

皆さんは海の上に佇む「赤崎水曜日郵便局」をご存じでしょうか。かつて、その場所は赤崎小学校という学び舎でした。2010年3月に閉校となったその場所に、小学校を利用したアートプロジェクトとして郵便局を設置しました。そこへ、全国から水曜日の出来事を記した手紙を送ってもらい、その手紙を交換し、再び手紙を送った誰かに転送するというプロジェクトです。残念ながら2016年3月に閉局し、現在はこのプロジェクトは行われていませんが、この本を読めばあなたも見知らぬ誰かの水曜日の物語と出会うことができます。巡り合うはずのない“他人の日常”との出会い。不思議な縁によってもたらされる、ささやかな日常のなかの奇跡を楽しんでみてはいかがでしょうか。

図書館には、他にもさまざまな本があります。本との出会いも一期一会。ぜひ図書館に来て、本との出会いを楽しんでみてください。